

1 人口減少の負のスパイラルに陥った高知県経済 (計画策定の背景)

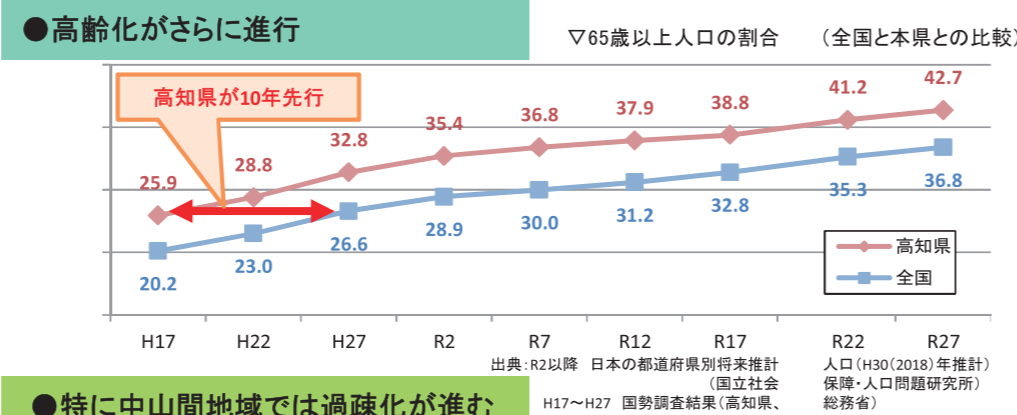
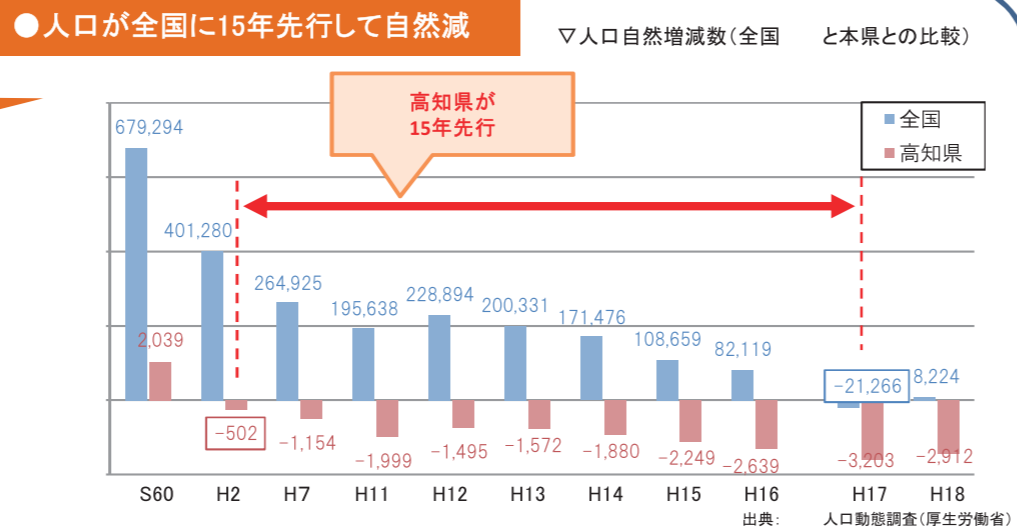
全国に先駆けて人口減少・高齢化社会に突入した高知県



高知県では、全国より15年先行して平成2年から人口が自然減の状態に陥り、人口減少による経済の縮みが若者の県外流出と特に中山間地域の衰退を招き、さらに経済が縮むことで県民の暮らしが一層苦しくなるという「人口減少の負のスパイラル」を

たどってきました。

「人口減少の負のスパイラル」のダメージが県経済の様々な面に表れる

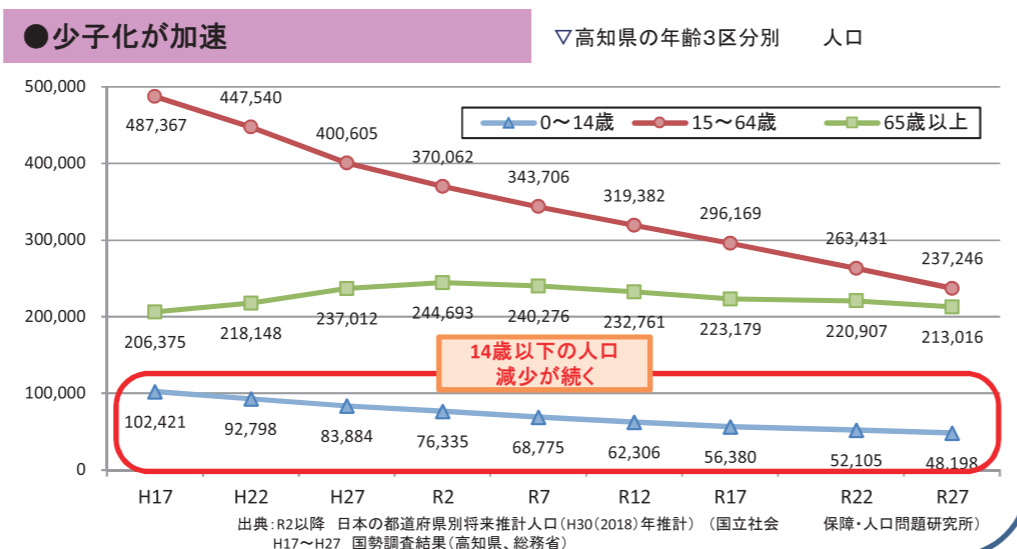


●特に中山間地域では過疎化が進む

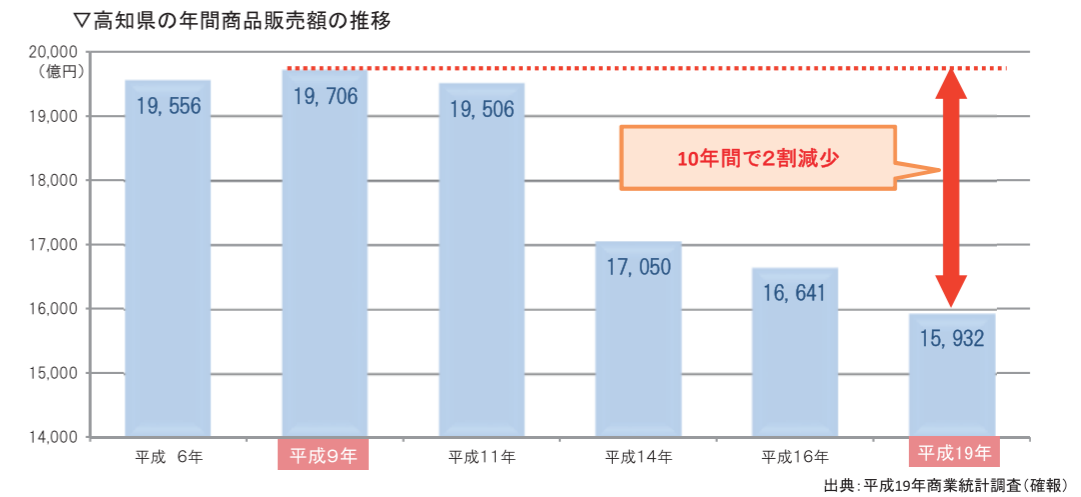
▽県全体と県内中山間地域の人口の推移(昭和35年と平成27年の比較)

	S35	H27	S35→H27減少率
高知県全体	854,595人	728,276人	14.8%減
中山間地域	537,327人	285,379人	46.9%減

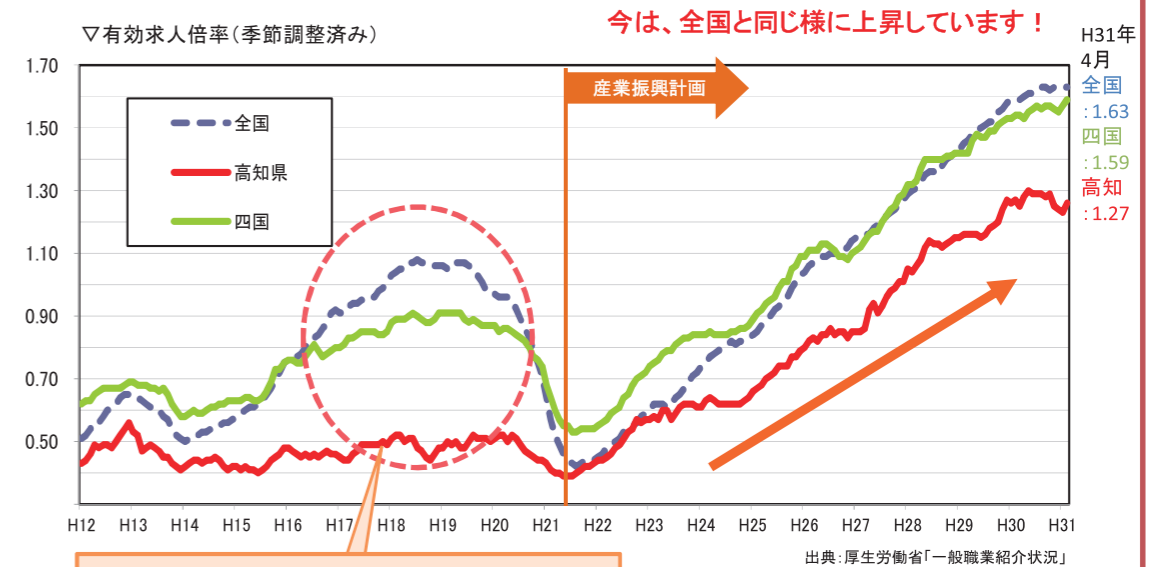
出典: 平成28年高知県集落調査



●平成9年からの10年間で本県の経済規模は大幅に縮小



●かつて、景気の回復の波に乗れず全国平均等に大きく引き離される状況が続いた



●全国の景気が回復する中でも本県は低迷

